

スポーツ施設や人々の日々の健康習慣について、国際交流しました！

韓国の国民体育振興公団の方々が荒川総合スポーツセンターへ視察にきました。

国民体育振興公団は「国民体育振興基金」という基金を作り、多様な体育事業に予算を支援する役割を遂行する機関です。この基金は韓国の体育予算の90%ほどを占めるほど、韓国の体育事業で大きな役割を果たしています。

来日の目的は、

- ① 日本の体育施設やプログラムを見学すること
- ② 日本の体育文化を体験するため

理由は、日本の生活体育施設を把握すると同時に日本の生活体育利用現況、体育利用文化を調べるためです。

実際に日本の住民たちがどのように地域スポーツセンターを活用し、生活体育活動をしているのか直接見てみたかったからです。

訪問するにあたり、スポーツセンターを探すために google 地図を活用しました。

東京のスポーツセンターの中で荒川総合スポーツセンターが特に訪問者たちのレビューが良く、施設もまた快適だということが分かり訪問を決めました。

濱田館長と国民体育振興公団の方々とで館内を周り、「とてもきれいで設備の整ったいいスポーツ施設ですね」とお褒めの言葉をいただきました。

また、年間利用者数をお伝えしたところ、大変驚いていました！笑

そうなんです！荒川総合スポーツセンター、年間利用者数約56万人です。

大体育室の空調設備（床からの冷暖房）は、バドミントン利用者にとって、とても好評であることや、温水プールのスロープや可動床（小プール）は障がいのある方、シニアの方、お子さま連れの方からとても喜ばれていることをお話したところ、とても興味を持たれていました。また、バリアフリーの充実さにも驚いていました。

余談ですが、韓国には日本を代表する野球選手「大谷翔平」さんのファンクラブがあるそうです！！さすが、世界の大谷さんですね！

リニューアルをしてから、多くの体育施設関係の方や、運動・スポーツに関係する方が視察に来てお話をしていかれませんが、みんな口を揃えておっしゃるのが、

- ・設備の整ったキレイなスポーツ施設
 - ・バリアフリーの充実さ
 - ・健常者、障がい者、問わず使いやすい工夫をされている事が伝わる
 - ・利用する方々の笑顔が生き生きしている
- と、いう事を言っていただけます。

今回、国を越えて韓国の国民体育振興公団の方々をきっかけに異文化に対する理解と認識を深める事ができ、自らの生活や地域社会・地域特性を活かした幅広い交流と、異文化の知識を持つことで新しい視点やアイデアを得ることができました。

これからもより良いものを発信し、私達が出来る事を模索し、行動に移していければと思います。

荒川総合スポーツセンター



韓国国民体育振興公団
マスコットキャラクター
バックホードル (Baekhodori)